

令和3年度（2021年度）第2回 熊本市公民館運営審議会会議録

【開催日時】 令和4年2月15日（火） 14:00～16:00

【開催場所】 オンライン

【出席者】

■ 公民館運営審議会委員

穴井 佳典 委員
諏訪園 勉 委員
成清 信彦 委員
加藤 貴司 委員
小柳 高子 委員
中島 敬治 委員
稲田 憲生 委員
内野 理恵 委員
高梨 沙織 委員
福島 貴志 委員
山田 はる美 委員
香崎 智郁代 委員
澤田 道夫 委員
藤井 美保 委員

以上14人

■ 事務局

市民生活部長 石坂 強
中央区まちづくりセンター所長
太田 就久
中央公民館長 桑原 英彰
五福公民館長 田尻 裕一
大江公民館長 長船 哲也
託麻公民館長 西村 啓治
秋津公民館長 石田 智寿
東部公民館長 藤川 潤子
西部公民館長 坂田 文昭
河内公民館長 田尻 勇人
花園公民館長 中川 奈穂子
富合公民館長 水町 美延
飽田公民館長 鳥井 治充
天明公民館長 野本 達雄
幸田公民館長 甲斐 智子
城南公民館長 田中 徹
南部公民館長 岡本 智美
植木公民館長 羽矢 治郎
北部公民館長 増田 浩徳
清水公民館長 清田 隆宏
龍田公民館長 本巢 由実子
生涯学習課長 青山 和人

以上22人

【会議資料】

- ・ 令和3年度（2021年度）第2回公民館運営審議会 審議資料
- ・ 別冊資料
- ・ 参考資料（関係法令等）（前回議事3）

発言者	発言要旨
【開会】	
【熊本市文化市民局市民生活部長挨拶】	
【委員及び職員紹介】	
【委員長及び職務代理者の選出】	
【議事（１）】令和３年度（２０２１年度）重点事業の実施状況について	
事務局	（議事（１）について説明）
委員	別冊資料の事例集を見ると、ICT を利用した講座について、四苦八苦しながらも積極的に取り組んでいて良いと思った。今後の ICT 講座の開催に、貴重な資料となるので各公民館職員で共有してほしい。 ICT を利用するメリットだけでなく、インターネットを悪用したフィッシング詐欺の被害にあうことや、文字のみのやり取りだと、会話でのやり取りに比べて相手に伝わりにくいなどのデメリットについても同じ一つの講座の中に入れてほしい。
事務局	ネット詐欺対策に関する講座を数館で実施したが、ご意見を参考にさせていただき、全館での実施について検討していきたい。
委員長	どうしても、インターネットの“利用”と“ネット詐欺対策”等の講座が別々で行われがちなので、同じ講座の中で両方とりあげられると良いと思う。
委員	これまで SDGs に関する取組が少ないと感じていたが、今回、SDGs のことが多く取り上げられていて良かった。これからもぜひ進めてほしい。 世代間交流について、各学校との連携が大切である。地域の高齢者の中にも歴史や地理に詳しい方が大勢おられるので、地域の方との世代間交流も強化し、地域の人材発掘を行ってほしい。
事務局	北部公民館や富合公民館では、地域在住の方が講師となっていた。これからも地域の輪を広げていきたい。
委員	コロナ禍で各公民館の社会教育主事をはじめ各公民館の職員が非常に努力されたと思う。 おでかけ公民館をなかなか開催できていないが、この状況下で工夫しているところや、学校が講座を申し込んだ際の予算状況を教えてほしい。
事務局	コロナ禍以前は生涯学習コーディネート研修を市内の小中学校エリア内の担当者に公民館にお越しいただき、連携について担当者と公民館と一緒に企画したりしていたが、このような状況の為、各公民館社教主事が中心となり学校を回っている。令和４年度は、６月に実施を予定している。 「公民館へ行こう」という講座を Zoom を使い、児童生徒たちに参加してもらうような形式で実施した例もある。これからもそういったオンラインでの活動を広げていきたい。

事務局	予算については、おでかけ公民館として予算がついているわけではなく、主催講座開催経費の中から支出している。経費が全くかからない形態で開催している場合もある。
委員	乳幼児がいると、なかなか出かけての講座を受講しづらい。乳幼児がいる子育て世帯の方向けの講座の実施状況を知りたい。
事務局	重点事業ではないため資料には載せていないが、各公民館で乳幼児の保護者向けの講座を実施している。親子で参加のオンラインを併用したハイブリットな講座を開設している館もある。
委員	補足だが、子育て支援の推進事業を幼稚園でやっており、未就園児向けの講座を行っているが、コロナの影響で実施できていない。また、近くの子ども文化会館も改修工事で1年以上利用できなかったため、五福公民館と協力して相互に情報を発信し合うと、幼稚園と縁のなかった乳幼児をお持ちの保護者がきてくださるようになった実状がある。
委員	日本は一人当たりの労働生産性が OECD 加盟 38 か国中 28 位と低迷しているが、デジタル技術のスキルを持った人材の育成が十分でなかったことが理由の一つと考えられるそう。そのため ICT の活用等については、現在日本が急いで取り掛かるべき最重要課題だと私は考える。コロナの終息如何にかかわらず、重点事業として今後も継続して ICT の活用を推進してほしい。
事務局	貴重なご意見感謝申し上げます。今後とも推進してまいります。
【議事（2）】公設公民館見直しの進捗状況について	
事務局	（議事（2）について説明）
委員	当審議会の資料を少なくとも1週間前にはもらわないとなかなか意見が出しづらい。
委員	自主講座の見直しについては、もし、参加者数が大きく減少した場合など、どういった理由で減少したかをデータで分析・検証してほしい。 事務局が言うように、多くの方に平等に公民館を利用してもらうのが大切だと思う一方、現在利用されている自主講座生も大事にしてもらいたい。実施後の検証が大事だと考える。市民の目線に立った対応をお願いしたい。
委員	4 か月前からの予約開始や、使用者登録の簡略化等とても良いと感じた。 自主講座の見直しについて、サークルへ移行すると同じメンバーがずっと同じ講座に在籍するというにならないか。新規の人が入る余地があるのか。
事務局	自主講座については現状でも新規の方の参加が少ないので、それを改善させることが課題だと考える。 現在の自主講座生については、いったん解散することなく継続して活動していただこうと考えている。自主講座に代わるやり方として、既存の団体・サークルへの参加支援や、新規の方への参加へのきっかけづくりの一環として、主催講座による「体験講座」のようなものを実施していくことを検討している。

委員	自主講座の見直しについては、反対意見の多くが年間の部屋確保が今後でなくなるのでは、といった懸念からだと思う。サークルに移行することでどう変わるのか考えていく必要がある。 利用制限の緩和等、非常に良い試みだと思うが、営利目的との兼ね合いがあると、各公民館での判断が難しい場面が増えると思うので、考え方をもっとシンプルに整理し、現場の公民館職員がわかりやすいマニュアルの作成が必要だと思う。
委員	自主講座とは募集の時期が年1回なのか。 自主講座がサークルになっても活動が盛り上がっていくように、もっと気軽にお試し参加ができるようことができないか。
事務局	現在の自主講座については、対象の自主講座が始まる前年度の2月から3月に講座生を募集している。各講座の定員に満たなかった場合は、年度途中での加入もできる。 既存のサークルへのお試し参加については、見直し案にある既存の団体を紹介する支援を考えており、体験的に気軽に参加いただいて、合わなければ、サークルの立ち上げ支援へとつなぐなど、新規の方が継続して活動していけるような支援を考えている。 統計をとっているわけではないが、現在の自主講座生のうち、全くの新規の方の割合は1～2割程度になっているので、今後新規の方が急激に増加することはなかなか難しいと考えている。そのため、新規の方を増やしていく取組だけでなく、利便性の向上や利用制限の緩和など、継続して活動している既存の団体への支援も併せて行っていく予定である。 今後、利用者アンケートを実施予定であり、利用者目線で使いやすい公民館を目指していく。
委員	4か月前から予約ができるのは利用しやすくなるが、他の施設では6か月前から予約ができるところが多い。今後、さらなる前倒しの検討もしてほしい。 地域活動推進課やあいぽーとの連携状況について教えてほしい。 ボランティアの情報発信をしていった方がいい。また、地域の方に愛される公民館を目指すことが大事であり、地域のまちづくりに取り組んでいる団体等との連携も強化してほしい。

事務局	公設公民館では貸館のみならず、主催講座もおこなっている。貸館の予約で施設利用が埋まっていくと、主催講座の企画・開催が困難になると想定される。今後、実際にやってみて検証をして色々と見直しの検討を行っていくが、まずは4か月前からの予約とさせていただくこととした。 あいぽーと等との連携については、各館でそれぞれ連携している状況であり、組織立ててシステマティックに連携しているところまではっていないのが現状である。見直しの中で地域への還元活動を掲げているが、例えば高齢者施設からのボランティア要請等のニーズについて情報共有を行い、公民館で活動している団体がそうしたニーズに応じて地域に出ていくといった仕組みもできると思うので、そうしたことも視野に取組んでいきたい。 また、現在、公民館は地域のまちづくりを推進するまちづくりセンターと組織的には一体となっており、今回の見直しでも、生涯学習機能の向上とまちづくり推進の拠点性向上を2軸に据えて取り組んでいる。地域担当職員が地域に入って情報交換しながら把握した地域課題やニーズを公民館事業に活かしていくなど、地域との連携を強化していきたい。
委員長	各委員からは、制限の緩和の部分について、非常に良いことだと意見が出たが、明確なルール作りや統一した運用をおこなっていくことを、気を付けてほしい。 また、講座体系の見直しについては、私自身、既存の自主講座生から意見を聞く機会があったが、今の資料の作りが新規の方ばかりにスポットがあてられていることで、自分たちは見捨てられたと誤解を与えているように感じた。新規のすそ野を広げたいという見直しの趣旨について丁寧な説明を行い、今までの利用者もどんどん公民館を活かして自己実現をしていただき、さらにすそ野をもっと広げ、より公民館を身近にしたいというスタンスで説明していただきたい。 貸館については、「公平」を言いすぎると反発も出るので、どういうやり方がみんなにとってフェア・公正であるのかという観点でルール作りをしていただきたい。
【議事終了】	
【閉会】	